

最初に、私が二週間のストラスブールでの研修で学んだ、あるいは獲得した三つのことを紹介します。一つ目は、ジェスチャーなどを使って伝えようと努力すれば伝わるということ。二つ目は、挨拶と言葉にすることがとても大切であるということ。三つ目は、文化が違えば当たり前だと思うことも異なるということ。これから、どのような場面でこれらのことを学んだのかということとその詳しい内容について紹介していきたいと思います。

私が、ジェスチャーを用いることの重要性を感じたのは主に、お店での店員さんとのやりとりやホームステイ先での会話、授業での先生とのやりとりでした。フランス語を勉強し始めて約1年の私は、わからない単語や表現などが多くどのように言葉にすればいいのか悩むことが多くありました。そんな時に、その言葉がわからないからといって話すのを諦めるのではなくジェスチャーを用いて表すことで積極的にコミュニケーションをとってみれば伝わるのだということを学びました。これは、私だけに当てはまることではなく、授業をしてくださった先生や会話の相手にも当てはまります。私が、会話の内容を理解していないとわかるとジェスチャーを用いて表現してくださったおかげで、なんとなく内容がわかってくるということが多々ありました。これは、教科書などを読んでいても学ぶことができない、実際に会話をすることで初めて気づくことができる大切なことだと思います。留学した直後は、しっかりと文書にして話さなければ伝わらないのではないかと緊張していたため、なかなかコミュニケーションをとりに行く勇気が出なかったが、このことを学んでからは伝わればそれでよしと割り切ることができ、話すことが楽しくなったのでとてもよかったですと思います。これは、他の言語を勉強する際や外国の方と会話をする際に大いに役立つことだと思うので今回の留学で学ぶことができ、本当によかったと思います。

次に、挨拶と言葉にすることの大切さを感じたのは、お店に入った時やホームステイ先、現地の人々の会話でした。そう感じたきっかけは、お店に入った時にどのお客さんも店員さんと挨拶をするということです。この文化は日本では主流ではないけれど、とてもいいものだと感じました。挨拶をすることで初対面の人ではあるけれど、少し親しい感じがするしとても話しやすくなりました。また、お店を出る時やお会計の時、人の近くを通る時にも一言声をかけていました。このことから、フランス人は挨拶を大切にし、言葉にすることを重視していると考えようになりました。お店での、店員さんと地元の人々の会話の様子を見ていてもとても楽しそうに話をしていることが多く、人と人のつながりをとても大切にしている感じがしました。これは関係があるのかわからないのですが、街で見かけた人の中で歩きスマホをしている人がほとんどいなくて、だれかと仲良く会話をしている場面を見かけることが多かったです。日本人は礼儀正しいと言われることが多いですが、挨拶や人とのつながりといった基本的な部分が最近はおろそかになってきているような気がします。私は、留学をしたことによって日本の優れた点をいくつか見つけ、その魅力を再認識することができたが、この挨拶を大切にす文化のように見習うべきものも多くあると実感することができました。これは、勇気を出して留学をして本当によかったと思えることの一つです。

最後に、文化の違いが当たり前の違いにつながると感じたのは、本当に様々な場面です。

これから、いくつかの具体的な場面を紹介したいと思います。まずは、レストランで食事をした時のことです。日本では、席に着くとおしぼりと水を持ってきてくれることが多いですが、フランスではおしぼりはなく水も商品の一部でした。また、会計をする際も小さな缶のようなものを渡され、その中にお金を入れて立ち去るという形でした。日本での接客のレベルに慣れているとかなり戸惑うことばかりでした。営業時間という点でも、日曜日は休みであったり、営業時間が短かったりして不便だと感じましたが、これは日本人が働きすぎなのではないかと思います。次に、街を歩いていた時のことです。とにかく歩行者信号を無視する人が多い。赤でも車が来なければ渡るというのは、日本でも多少はあるがこれほど多いとは驚きだった。また、道に犬のフンがかなり落ちていた。日本では、飼い主が責任を持って処置するものだが、フランスでは違うようだった。ゴミに関する例だと、道端のゴミ箱の数が日本とは比べ物にならないほど多かった。そのため、ポイ捨てされたゴミを見かけることは少なかったが、ゴミ箱が少ないのにゴミが落ちていない日本は不思議だなと思いました。最後に、街中でトイレを利用した時のことです。日本では、トイレを利用するのにお金を払うという考えがありません。そのため、利用するのに 50 セント必要と書いてあったのでとても驚きました。日本には、チップという文化がないため良いサービスに対して追加でお金を払うという発想がないのだと考えます。このように、二週間の滞在ではあったが多くの文化的違いに気づくことができました。それと同時に、異なる文化を理解するのはとても難しいことであり、国際問題の解決が困難を極めていることに納得することができました。

以上が、私が研修を通して学んだ、あるいは獲得したことです。これら以外にも多くのことを体感することができたので、この研修に参加できて本当によかったと感じています。